

スクールカウンセラーだより 2

スクールカウンセラー 齋藤 光男

新しいスタートを切り1か月がたちました。そろそろ疲れが出る時期かもしれません。学校によっては運動会の準備など、少しずつ忙しくなってくるでしょう。そんな時だからこそ、ちょっと子どもたちと話す時間を意識したいですね。



期待されることのうれしさと、期待にこたえなければならない不安

以前、関わった子どもで、お話がうまくできないことでトレーニングをしていた子がいました。お話がうまくできない反面、絵が好きで、自分の気持ちを1コママンガで表現すると、会話もスムーズになり、自分の思いをしっかり表現できるようになりました。絵を描いているうちに何を言いたいかのイメージがはっきりしてきたように見えました。

その子に「絵は上手だよ。自信をもって。」と言いましたが、「僕は絵が下手なんだ。」と言っていました。

「何故そう思うの？」ときくと「表彰されたことがないんだ。」との事でした。

その子の絵はマンガだったので、図工などの評価の対象にはなりづらく、表彰にはつながらなかったようです。その為、担任と相談し、係活動などで、その子の絵を意図的に使い、クラスの仲間に認めてもらう作戦を立てました。その後、彼は中学校で美術部に入り部長になり、高校でも美術部に入り、その後、自信をもっていろいろな事に挑戦していくようになりました。



一方、絵で何度も表彰されていた子もいました。でも、みんなに上手だから描いてと求められると、その期待に添わなければならないという思いから絵が嫌いになってしまいました。

周囲に求められるということは自信にもなりますが、ときには期待に沿おうとしてプレッシャーになってしまう子もいます。絵は上手下手というよりは自由なものだと思います。

どんなことであっても仲間に認められるという事は自信に繋がります。いかにその子の良さを活かせる場を作っていくかがポイントだと思います。

忘れ物チャンピオンにも良いところはある！！

カウンセラーは小学校時代、忘れ物が多く、良く怒られていました。でも、怒られていたことも忘れ、懲りずに忘れ物を繰り返していました。言い訳になりますが、家から学校までは1時間近くかかったので、通学途中で気が付いても帰れません。

でも、忘れていても何とか困らずに授業には参加できていました。忘れていてもどうすればみんなと一緒に授業に参加できるかを考えて、友達に借りたり、代用品を探したり……。良く言えば友達に借りることができる社会性があったのかもしれませんが、また、代用品を考えられるアイデアマンだったのかもしれませんが、でも、こんな調子ですから勉強はできるほうではありませんでした。

勿論、忘れ物はしないほうが良いです。忘れると他の人に迷惑をかけることもあります。

勉強にも集中はできません。いつも貸してくれる人がいるわけではありません。

代用品があるわけではなく、結局いい加減な結果になることもあります。

誰にでも弱いところ、苦手な事があります。でも、全てがだめなわけではなく、

子どもなりに必死に何とかしようとする事も多いです。それを認めてあげることも大切です。



経験が自分の考えをしっかりとさせる

カウンセラーが関わる心理学系の学生のレポートを読むと、本やネットからまとめたレポートと、自分の過去の経験や、関わっている NP0 やボランティアサークルなどの経験を基にし、まとめたレポートがあります。

両方には明らかな違いを感じます。本やネットで調べたレポートはきれいにまとまっていますが、そこには自分の意見があまり感じられません。一方、自分の経験を基に書かれたレポートは日常の混乱した様子や、悩みながら関わっている様子も書かれており、レポートとしてはまとまりがないものの、自分で考えている様子が伝わってきます。



心理学の講座は人の心を考える内容です。人の心はその場その場で変化していくものです。ですから基本的な知識も必要ですが、それ以上に「今、ここで」の感覚が大切になってきます。その基となるのは様々な経験値でしょう。ですから、子どもたちには多くの経験をさせてあげたいと思います。様々な事にチャレンジさせ、自分の考えを持てるようにしてあげたいですね。

子どもを追い詰めない

子どもが失敗をしたときに、大人は失敗を繰り返さないように、なぜ失敗をしたかを聞こうとします。原因が分かれば解決策が分かると考えるからです。でも、原因をうまく説明できる子達ばかりではありません。むしろ説明できない子の方が多いでしょう。

チョットしたはずみで失敗することもあるでしょう。

自分が意識していないところで起こる場合もあると思います。

また、失敗の原因はわかっているもうまく言葉にできない子もいるでしょう。

そういう子にとって原因究明をされても、うまく言葉にできません。

むしろ、うまく説明できない事で追い詰められているという気持ちになることも多いです。

小さい子は怒られていても、ずっと下を向きながら涙をためている子もいます。

上手く言葉にならないからです。そういう時は「まっ、いいか！しょうがない。次、頑張ろう」というように前向きに考えてあげたいですね。切り替えることの大切さを学ばせたいと思います。

原因究明より、次にどうしたら良いのかを一緒に考える事のほうが前向きになりますね。



言葉の発達について

言葉の発達に関してのある研究発表を聞くチャンスがありました。

個人差はありますが、大雑把にまとめると

しっかりと子どもの顔を見て、話しかけると言葉は豊かになるという事でした。

そのなかで「ブーブー」や「わんわん」のように育児に使う幼児語を使う方が、言葉を豊かにするという事でした。

多分、話しかけるときに、子どもの顔をしっかりと見ていることが大きいのだと思います。

今は子どもとアイコンタクトを取って話しかけていく事が減ってきたようにも思います。

赤ちゃんでもスマホに見入っているような状態で、そのことで視力に影響したり、目の動きに影響したり等のデータもあります。便利になった分、子どもの顔を見て、ゆっくりと過ごすという事が減ってきたように思います。もう一度、ゆっくり顔を見て話をしてあげてほしいですね。

